

平成26年度  
ふるさとづくり大賞

受賞者の概要

平成27年1月8日

## 大賞（内閣総理大臣賞）

株式会社鹿渡島定置【石川県七尾市】	2
-------------------	---

## 優秀賞（総務大臣賞）

特定非営利活動法人 グリーンバレー【徳島県神山町】	3
長野県木島平村	4

## 団体表彰（総務大臣賞）

特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会【北海道西興部村】	5
南三陸復興ダコの会【宮城県南三陸町】	5
公益社団法人 sweet treat 311【宮城県石巻市】	6
「共助組織」代表者ネットワーク会議【秋田県横手市】	6
株式会社出羽庄内地域デザイン【山形県鶴岡市】	7
手ノ子地区協議会【山形県飯豊町】	7
荒川区伝統工芸技術保存会【東京都荒川区】	8
多文化まちづくり工房【神奈川県横浜市】	8
特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター【新潟県村上市】	9
黒部ワンコイン・プロジェクト実行委員会【富山県黒部市】	9
若狭熊川宿まちづくり特別委員会【福井県若狭町】	10
大鹿村立大鹿中学校【長野県大鹿村】	10
特定非営利活動法人 てほへ【愛知県東栄町】	11
有限会社 せいわの里【三重県多気町】	11
一般社団法人 南紀州交流公社【和歌山県白浜町】	12
株式会社 巡の環【島根県海士町】	12
特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト【広島県尾道市】	13
おららの炭小屋「奥木頭炭焼き保存伝承会」【徳島県那賀町】	13

## 地方自治体表彰（総務大臣賞）

東京都足立区	14
兵庫県朝来市	14

## 個人表彰（総務大臣賞）

桑田 ミサオ【青森県五所川原市】	15
風間 教司【栃木県鹿沼市】	15
高市 範幸【石川県能登町】	16
野々村 光子【滋賀県竜王町】	16
坂本 勲生【和歌山県田辺市】	17

## 試験研究機関表彰（総務大臣賞）

栃木県農業試験場いちご研究所	18
愛媛県農林水産研究所水産研究センター	18
鹿児島県工業技術センター	19

## 株式会社鹿渡島定置

石川県七尾市

## 概 要

魚価の低迷等、漁業の操業環境が厳しい状況において、単に魚を獲るだけではなく、付加価値を付けるため、魚の鮮度を長く維持できる「神経締め」等の先進的な技術を導入し、インターネットを活用した直接販売を行うとともに、加工施設を設け、厄介者扱いされていた海藻を「海のじねんじょ」という人気商品にするなど、6次産業化により収益を伸ばし、地域の雇用創出に貢献している。

また、漁業従事者の高齢化が課題となっている中、見て覚える昔ながらの風習から脱却し、作業のマニュアル化や社員研修の開講等により、海外からの研修生を含む若手後継者の育成に取り組むとともに、台湾など海外への技術の伝授にも貢献している。また、昇格には立候補制を導入するなど実力主義の導入により、30歳代の船頭、20歳代の社員8名を含む社員15名の平均年齢が34歳と、若い社員の多い活気ある会社である。



## 評価された点

- ・ 漁業継続者の確保と環境保全、日本が世界に向けて情報発信すべき「次世代型産業振興策」でもある。若者の雇用場として、より良い労働環境づくりに努力しながら、「夢のある成長分野」として、新しい取り組みを続けている。高く評価。
- ・ 漁業従事者の高齢化が課題となる中、いち早く「獲るだけ」の漁業から、先進的な鮮度管理の仕組みの導入、新たな加工技術の開発、六次産業化等によって、漁獲物の付加価値を高め、販路拡大に成功してきた。漁業を若者にも魅力ある働き場にして県外からの移住者を増やしたり、海外の漁業者支援も進めるなど、日本漁業に希望の光をもたらす取り組みとして高く評価される。
- ・ 伝統漁法を維持継承するだけでなく、海外とも連携して地場産業に貢献している。
- ・ 新技術の取得、6次産業化、後継者育成と横断的な事業に取り組んでいる。
- ・ 若い人を常時受け入れられる体制づくりが地域に新しい夢と元気をもたらすと思います。大きな貢献をしている。
- ・ 全国の漁業事業者の参考になる事例。事業拡大のみでなく、移動販売車を導入するなど、地域へのきめ細やかな目配りも評価できる。
- ・ 国内外の研修を受け入れ、伝統的漁法の継承に力をいれている点は特に評価できる。



## 概 要

自然豊かな過疎地域でありながら、高速ブロードバンド網が行き届いているという利点を活かし、古民家を東京のICTベンチャー企業に貸し出す「サテライトオフィスプロジェクト」をスタートさせ、ワークライフバランスの調和がとれた新しい働き方を提案。

サテライトオフィス社員に対する生活支援や、地元での受け入れ体制に全面的なバックアップを行い、四国のお遍路文化である「お接待」により、魅力的な人材誘致を行っている。県外からのIT企業やクリエイティブな人材を呼び込むことで、平成23年度には社会動態が12人増と昭和30年の合併以来、初めて増加に転じるなど、過疎地域の活性化に成功した。このサテライトオフィスの集積により、日本のシリコンバレーを目指している。



## 評価された点

- ・ 今後の過疎地域の新しい手法として注目される。
- ・ 地域が人が外から来るのを待つのではなく、「逆指名」という形で積極的に外に起業家を求めている。
- ・ 企業誘致ではなく、仕事を持っている人たちの「人材誘致」によって、地域の活性化につなげている。誘致された人材と地域の人たち、地元の産業とのコラボレーションも広がりつつあり、豊かな自然環境だけではない地域の魅力が引き出されることで、今後、さらにサテライトオフィスが増えていく可能性があり、将来性を含めて高く評価される。
- ・ 四国山脈の奥地で次々と新しい活動を開始し、特に高速通信網の整備を契機に人口流入増にまで逆転させた素晴らしい活動。
- ・ 過疎地域で、コ・ワーキングの仕組みを導入している。難しいモデルだが、成果が見えている。
- ・ ベンチャー企業を誘致したのも見事だが、国際親善クラブから発展したものおもしろい。今後の日本の地方に新たな元気をつける取り組み。
- ・ 過疎地域における移住交流促進の先進事例。企業を誘致するというより、稼げる人を誘致するという発想で、数々の成果をあげている。これからの創造的過疎地域の範となる事例であり、地域資源の利活用という点でも注目に値する。
- ・ 転入者の増加等、着実に成果を上げている。ICTの整備や、地元の支援体制など神山町ならではの工夫は、ハイレベル。他地域の参考となる好事例。
- ・ 高速ブロードバンドがきっかけとなる新しい地域活性化のモデルとしてユニーク。
- ・ 都市部からのIT企業やアーティストの受け入れ環境整備に注力し、人口の社会増などの効果を上げている。



## 長野県木島平村

## 概要

「農村文明の創生」という新たな取り組みについて、有識者顧問による会議を開き、農村文明の在り方などを常に検証。村民の「暮らしと生業」に自信と誇りを持つために、講演会などが中心のオープンカレッジや村に伝わる文化や伝統技術を学ぶ実践講座などを行う農村学講座、村民自らの趣味や技を活かし、興味や関心がある事柄について研究し、地域づくりにかかわる村民研究員制度、大学の知の力を地域づくりや行政施策に生かすために大学との協定締結を進めている。

特に首都圏や地方の大学生が集まって農村を体感し集落づくりに参加する「農村版大学コンソーシアム」を開催しており、今後は、小規模自治体の職員のネットワークを構築する「行政コンソーシアム」、グローバルな企業人に世界に誇る日本の農村文化を学ぶ機会を提供する「企業コンソーシアム」の開催を予定。さらには、数少なくなった「村」の状況をかながみて、全国の村長が集う全国村長サミットを開催し村長のネットワークづくりに取り組んでいる。

これらの事業「農村文明の創生」を進めるための組織として「農村文明塾」を設立し、村民と地域行政（木島平村・国・県）、民間企業から支えられる組織を目指している。



## 評価された点

- ・まだまだこれからであるが村の挑戦に期待したい。
- ・この取り組みによって新たな発展が期待出来る。また、新幹線が開通するタイミングでもあるので良いチャンス。
- ・農村文化を守り、誇りをもつために、住民自ら学び活動すること、都市住民との交流などのソフト事業を積極的にすすめている。農村文化を資源として展開していくことは、これからの農村地域の範となるべき取り組み。
- ・「農村文明」を地域・学・行政で深め、地域の人々の自信と誇りに繋げる先進的な取り組み。「農民文明の創生」こそが、全国の農村の再生につながる。
- ・バブル期にも大型開発を指向せず、長年農山村らしさを活かした観光交流を目指してきた。「農村文明塾」の活動も着実に形が整ってきている。大学コンソーシアムでは学位取得も可能となっている。行政コンソーシアムは今年度から新たに開講するなど着実に前進している。



## 特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会

北海道西興部村

### 概要

ハンターの高齢化などによりエゾシカの駆除頭数が減少、農林業被害や交通事故も増大したことにより、村では村内全域を猟区として設定、エゾシカを狩猟資源として管理。安全で成果ある狩猟ができるよう地元ハンターがガイドとして付き、ゲストハンターに狩猟の場を提供している。これにより、地域が主体となった次世代の野生動物管理システムの開発を目指している。



### 評価された点

- ・地域ならではの課題に対して、会員自らが自発的に取り組んでおり、自主財源で運営をしている。
- ・ゲストハンターにエゾシカの狩猟の場を提供し、地元ハンターがサポートする体制をつくりだし、獣害対策、交流の両方を果たしている。獣害対策は、各地の重要な課題であるが、この取り組みは一つの参考になる。
- ・ハンターの高齢化、減少は資源管理上、大きな課題となっている。次世代育成の視点を評価。



## 南三陸復興ダコの会

宮城県南三陸町

### 概要

町の名産であるタコをモチーフにした「オクトパス君」のグッズ制作・販売などを事業化し、被災地の雇用創出・地域振興を図っているほか、関連事業として、集合内職を運営する「手作りセンター推進事業」や、耕作放棄地を活用した「農園コミュニティ推進事業」などを展開し、里山を核とした地域づくりを推進している。主力商品の売上の一部を義援金として、東北3県と南三陸町に寄付している。



### 評価された点

- ・グッズの販売により、住むところや仕事を失った人たちの働く場を生み出すだけでなく、地域の人たちが安心できる居場所、地域交流の拠点ともなり、さらには全国からの注目を集めることで、地域の人たちの自信や誇りにもつながっている点が高く評価される。農園コミュニティ作り、新事業の展開など、絶えず新たな挑戦を続けており、今後のさらなる発展も期待できる。
- ・特産品を活用した商品開発、キャラクター化、多角的な事業展開など、他地域の参考になる好事例。大学、企業、NPOとのネットワークが広がり、震災復興に大きく寄与している。



## 概要

東日本大震災で被災したこどものケアと学習の機会を設けるために設立。現在は石巻市雄勝町を拠点に、地域資源を生かした学びの場を創造し、漁師や地域の方々と協働で運営している。全国だけでなく世界から人が訪れており交流人口増に寄与。築90年の廃校を活用し2015年夏オープン予定のこどもたちの複合体験施設モリウミアス（森と海と明日へ）では雇用も創出。世界へ、そして世界からのゲートウェイとなるグローバルで新しいまちづくりを目指している。



## 評価された点

- ・ 息長く続けていく事、そして課題は時と共に変化しながら且つ、深化する両面に取り組んでいる。高く評価したい。
- ・ 学校再生というプロジェクトの過程で地域の人を巻き込みながら地域再生につなげている。
- ・ 子どもの育成に焦点を当て、全国の交流拠点として廃校を上手に活用している。今後の地域再生モデルとなる。
- ・ もっとも大切な子供のこころのケアを提供する事は震災後の大きな課題。この活動が拡大される事を願っています。



## 「共助組織」代表者ネットワーク会議

## 秋田県横手市

## 概要

地域の諸課題を地域の手で解決していく仕組みづくりを構築するとともに、地域に必要なサービスの提供と活性化を図ることを目的に、平成24年に大森町保呂羽、山内三又、山内南郷、増田町狙半内の4地区に共助組織が結成され、「地域おたすけ隊」と称する実働部隊が、高齢者世帯の屋根の雪下ろしなどを有償ボランティアとして実施している。

## 評価された点

- ・ 買い物支援、雪下ろし支援、見守りなどの共助に係る横手モデルは、過疎化、高齢化の進む地域における自主的な取り組みであるとともに、新しい公共を担うものとして評価される。
- ・ 公助・共助、多様な組み合わせによる「力」の助け合いが求められている。必要とする時に、必要な「力」を寄せ合わせる実働のあり方を、多くの地域の参考例としても貢献。
- ・ 高齢化に向かう共通の課題に対して、当該人の活用を積極的に取り組んでいる。
- ・ 地域の元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える仕組みが、今後の高齢化社会に合致する。また、有償ボランティアの仕組みも地域経済に寄与する。



## 概要

庄内地域固有の優れた資源をさらに掘り下げ、ブランド構築することを目的とする。文化情報誌の“Cradle”を発行し、食、文化、観光等の魅力を伝えるとともに、地域おこし等の取組みを紹介している。また、産官学29団体に構成する「出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会」を組織し、事務局として文化遺産を活用した地域活性化を目的とする事業を主導して実施した。



## 評価された点

- ・ 質の高い雑誌を継続的に発行し、庄内地域のみならず、全国規模の発信手段としている。
- ・ 地域文化の情報発信を、サポーターを増やしながら、確実に推進。着地型旅行商品の開発により、県外者へ庄内の魅力を伝える仕組みづくりを実現。
- ・ 産官学29団体の地域連携に基づく地域づくりの今後の可能性を評価。
- ・ 補助金をあてにせず、サポーターの協賛金や広告料をもとに自主的な発刊を続け、工夫を凝らした誌面企画を多く採用し、地域の魅力を地元内外に発信している。



## 手ノ子地区協議会

## 山形県飯豊町

## 概要

年々人口や世帯数が減少し、停滞する地域社会の活性化を目指し里(地域)興し活動を推進。宇津峠への遊歩道の整備、雁沢川を「ホタルの里」への整備、町営スキー場の通年利用の推進と周辺環境整備、荒廃採草地の「桜の森」への整備、地域の家庭料理のレシピ収集、商品化の検討、住民の手による「地区土地利用計画」の策定等を行なっている。これらの取り組みを通じて「手ノ子町の再現」を図る。



## 評価された点

- ・ いずれの活動も、地域の人の手による地域にとって、必然となる課題を自立・自治型のあり様を示している。
- ・ 複数の事業を連動して、地域活性化に貢献している。
- ・ 地域の料理のレシピが面白い。地域性を重視して町の発展につなげてほしい。
- ・ 遊歩道整備から家庭料理のレシピ収集など、地域の足元を見つめた地道な活動を、「地区土地利用計画」の策定まで結びつけ、実施できているのは評価できる。





概要

昭和52年度に「第1回あらかわの伝統技術展」が始まり、同57年の荒川区文化財保護条例施行の際に、業種を超えた伝統工芸技術の保持者による文化財保護団体として発足した。江戸以来の伝統工芸技術の保存、次世代への技術の伝承・育成を目的に、32年にわたり「あらかわの伝統技術展」「あらかわ職人教室」「あらかわ職人道場」などの普及事業を実施している。



評価された点

- ・荒川区の伝統工芸を、小学校へ講師を派遣するなどにより、技術の伝承と後継者の育成を一体として取り組んでおり、地域ぐるみの文化継承のあり方およびその成功事例として評価が高い。
- ・当該地域のもつ伝統工芸の技術を伝承していくと同時にその保存を目的とした他に類をみない活動である。
- ・観光資源の少ない大都市中心部で江戸時代以来の伝統技術を維持するだけではなく、それを地域の新しい文化に発展させている。
- ・東京という都会にありながら、地域の職人たちが早い時代から工芸技術の継承、保存の重要性に気付き、長年活動を継続している。



多文化まちづくり工房

神奈川県横浜市

概要

多様な文化背景を持った人たちが、それぞれの個性を出し合い、ともに楽しく暮らせる「まち」をつくることを目的に、継続的に活動している。人とつながりながら、まちづくりを行い、このまちで育った子どもたちにとっても、このまちに思いを持つ人たちすべてにとっても、大切なふるさととして、愛されるまちづくりを促進するため、地域や地域の関係機関とも連携している。



評価された点

- ・多文化なまちづくりに取り組んでいる点は、他の同様の地域でも参考になる。
- ・外国籍の人や子ども、若者など、社会的に排除されやすい人たちの居場所を創りだし、地域に新たなつながり合いを作り出している点が高く評価される。この地域で育った外国籍の若者が高齢化が進む団地のサポーターとして活躍するなど、当団体が目指す多文化の共生が”本物”であることを裏付けるもので今後も地域をつなぐ核として重要な役割を果たし続けることが期待される。
- ・国際化、多様化に対応した事業であり、都市型の活性化モデルとなる。



概要

地域内の財を集め、つなぎ、支えながら広がりのある「公」を創造することで持続可能な地域社会づくりに貢献することをミッションとして、コミュニティビジネスの育成や多様な分野における地域づくり事業のコーディネート、NPOやまちづくり協議会等の住民活動支援等を行っている。



評価された点

- ・コミュニティビジネス起業家育成地域づくりとして高く評価できる。
- ・地域の課題解決に欠かせないコミュニティビジネスを地域に多数、生み出すために、立ち上げ時だけでなく、その後も手厚いフォローをすることで地域に根づいた事業を生み出してきた点や、官民協働にとどまらず、民間同士＝民間連携にも力を入れることで、地域の重層的で多様な発展に寄与している点が高く評価される。
- ・地域内でのコミュニティビジネスを立ち上げており成果が見られる。
- ・コミュニティビジネス起業支援という分野において、確かな実績を残している。地域づくりの新しいモデルを構築した点を評価。



黒部ワンコイン・プロジェクト実行委員会

概要

利用者数減少や赤字経営に苦しむ富山地方鉄道を地域の貴重な資源として地元住民の手で存続、活性化することを目的として、市内15駅間を春・秋の土日祝日に500円で乗り放題にする取組みを行っている。期間中に沿線でスタンプラリー等のイベントを集中的に実施し、観光客や地元住民の利用者数増加により地域の活性化につながっている。



評価された点

- ・「保存と活用そして持続」いずれも地方鉄道が取り組む課題である。何より地域利用者を増強させつつ、地域外の利用者拡大を積極的に実践的に続けている。その活動の持続力に敬意を表したい。
- ・鉄道は愛好家の間では人気が上昇しているが、経営に十分に寄与しているわけではない。それを上手く経営改善につなげる努力をしていることを評価。
- ・各地域でバスの廃線が問題になっていますので、有効に地元の方々及び観光客が利用される事は素晴らしい。
- ・経営の厳しい地方鉄道の参考となる事例。
- ・沿線各地域の住民を巻き込み、魅力の再発見に繋がっている。



## 概要

町並み保存だけでなく住民が快適に住み続けたいと思えるまちづくりを目標に設立。この目標を見据えながら、住民が地域に誇りを持てるようなまちづくりを推進。伝統的建造物群保存地区制度の周知、修理相談等による町並み整備に加え、秋の観光イベント「熊川いっぷく時代村」の運営、空き家を活用した喫茶とお泊り処の開業など様々な地域活性化の取組みが住民主体で行われている。



## 評価された点

- ・極めての質の高いレベルでの伝統的町並みを保全しながら、「暮らし続けて、守る」「活かしながら、続ける」地域総ぐるみの活動と合わせて農業と周辺景観の保全と継続活動を実践している。地域づくりとしてのコミュニティビジネスへの取り組みとして、「宿」業や「休憩施設」等、町並み保全の仕方も積極的に成功させておられ、高く評価。
- ・住民が主体となって、住み続けたい地域づくりをしているところを評価。さまざまな住民主導の活動が生まれており、これからの地域づくりのお手本になる。
- ・伝統的建造物群保存地区の維持・保存だけでなく、移住促進に取り組み、実績が出ているのは評価できる。



## 大鹿村立大鹿中学校

## 長野県大鹿村

## 概要

日本で初めて「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選ばれた「大鹿歌舞伎」。この地の中学生は昭和50年から、大鹿歌舞伎の伝承事業に取り組んでいる。当初は有志の生徒がクラブ活動として始めたこの事業は、生徒の減少に伴い全校生徒一丸となって取り組み、40年目を迎える現在では保護者をはじめ卒業生の中からも多数の後継者が育っており、村の人々の願いは着実に実を結んでいる。



## 評価された点

- ・南アルプスの奥地で、人口も急速に減少している地域の人々が無形文化財を維持するために長年努力してきたことを評価。
- ・教育の大切な位置づけとして伝統文化を伝承させることがある。若者も自分たちが担い手だという感覚で当事者意識が強くなると思う。地域の絆をより親しく感じ、外から訪れる価値もある。
- ・衰退の危機にある、各地の伝統芸能継承の手本となる事例。
- ・無形民俗財の継承に、地域全体で取り組んでいる点。
- ・深刻な人口減少と高齢化にありながら、中学校全体で伝統継承に関わり、学生自身が文化の担い手、継承者として育成されている。



概要

25年前に奥三河・東栄の地に移り住んだ和太鼓集団志多らの若者たちが、ふるさと奥三河を元気に盛り上げようと地域の支援者達と一緒に立ち上げた法人。奥三河で共生することにより奥三河のありのままの魅力を情報発信したり、町民と町外の方との交流体験事業など様々な取組を企画し実施することで交流人口の増加を目指したりするなど、地域に元氣と勇気を響かせている。



評価された点

- ・25年前に移り住んだ1ターンの若者たちが過疎地域の中で起業し、集落活動や地域の伝統芸能の維持、継承、発展に重要な役割を担い、さらに今、親の世代となった彼らの地域への思いが子どもたちにも受け継がれている。外からの力が地域を支え、地域を変え、地域に新たな活力を生み出す原動力となった先進事例であり、過疎地域の活性化のヒントとなる。
- ・外部からの移住者と、地域の人々の協働による組織、活動。地域共生の好例であり、これからの発展にも期待がもてる。
- ・移住者と地元民との交流により関係性を育み、地域活性化につながっている点。
- ・若いターン者が多く地域活動に貢献している。1ターン者の視点から交流人口の増加に取り組んでいる。



有限会社 せいわの里

三重県多気町

概要

高齢化により、農業後継者不足と農地の荒廃が進み、農村の持つ豊かな文化が失われるという危機感から、農地などを守ろうという気運が生まれ、農村の産物・豊かな文化・お年寄りの持つ技術を生かそうと、地元の女性が中心となって、有限会社せいわの里を設立。農村レストラン、体験工房及び直売所である「まめや」を拠点に、地域の団体と協力した地域活性化活動などに取り組んでいる。



評価された点

- ・地産地消の取り組みと食育の循環の仕組みがうまくできていることが評価できる。
- ・女性を中心とした活動であり売上も増加中であり、地域の活性化に寄与している。
- ・中山間地域における農家レストランの範となる先進事例。地元の農家から、資金や料理、資材などの資源を持ち寄って運営している。その結果、参加者の主体性が芽生えて、独自の事業も生まれている。
- ・安倍首相の推進する女性活躍が、地域ですでに実施されている好事例。
- ・女性たちの力が原動力となっている活動である点。
- ・女性中心の活動。地元農林水産業の振興に寄与している。



概要

平成16年に農業協同組合、森林組合、漁業協同組合などの各種団体と農林水産業従事者などで「大好き日置川の会」を結成、平成23年4月に現法人に移行した。参加者が農林水産業のありのままの体験を通して理解を深める「ほんまもん体験」メニューの充実と、民泊の受入体制を整え、平成17年から小中高等学校の修学旅行の誘致活動等を開始し、交流人口の拡大に取り組んでいる。

評価された点

- ・ 地域にある自然を資源としてこだわり、交流人口を生み出す観光資源にまでつくりあげている。
- ・ 農林水産業の衰退で、過疎化・高齢化が進む中、地域のありのままの姿こそが観光資源になると発想を転換、地域の住民が同じ目標をもって民泊に取り組み、地域の1割が民泊を受け入れるに至っている。60種類もの体験メニューを準備するなど、創意工夫、新たな挑戦を続け、少子高齢化、過疎というマイナス面をプラスに変えていく地域力は高く評価される。
- ・ 地域資源を連動させ、交流人口を増加させた。経済波及効果も大きい。
- ・ 体験交流のプログラムの精度が高く、受け入れ体制もきめ細かく配慮されており、他地域の参考になる事例。



株式会社 巡の環

概要

人口減少・少子高齢化・財政難といった日本の課題先進地である一方、なりゆきの未来を変え、地方創生に積極的に取り組んでいる離島・海士町を舞台に、地域づくり事業・教育事業・メディア事業を柱として活動している。近年は大手企業などが参加して仕事力の元となる人間力を高める「海士五感塾」や他地域で活躍できる地域コーディネーターを養成する「めぐりカレッジ」に力を入れている。

評価された点

- ・ 海士町の活性化のために地に足のついた取り組みが評価できる。
- ・ 離島という地域でありながら、地域づくりに携わる人材を育てる人材育成産業を作る発想がユニーク。
- ・ ハンディの大きい離島で、埋もれていた地域の資源を活かす形で次々と新しい事業を作り出している。教育事業においては、企画・運営をすべて自主的に行い、補助金を一切使わずに黒字経営を続けている点、地域の魅力を引き出し、全国に伝え、島全体への経済効果をあげている点が高く評価される。
- ・ 補助金に頼らない地元資源型モデルとして成功している。
- ・ 地域づくりにおいては、地域内外のつながりを形成しくことが極めて重要である。そのためには、つなぐ役割を担うコーディネータが重要。このコーディネータ育成を通じての、地域イノベーションの実現に期待がもてる。



概要

尾道の旧市街地は、尾道市を代表する眺望景観を有する地域であり、同市も景観地区に指定する等、景観の保全・形成に取り組んでいる。当団体は、自身での再生活動に加え、市の「尾道市空き家バンク」に市と協働で取り組み、多くの空き家の活用を促進してきた。また、イベントや商店街の空き家を再生したゲストハウスの運営などを通じて、交流促進による地域活性化にも貢献している。

評価された点

- ・自発的な活動から長年にわたって継続的に活動をすすめている。
- ・全国的に大きな課題となっている空き家を地域の資源として捉え直し、旧市街地の街並みや景観の保全につなげて新たな観光資源にしたり、新たなコミュニティづくりの核として活用したりして、地域の活性化につなげており、全国の空き家再生のモデルになる取組みとして高く評価される。
- ・空き家バンクの成功モデルであり、地域活性化に寄与している。
- ・単なる空き家バンクにとどまらず、さまざまな人や組織との連携を通じて、交流拠点としての展開を図っている。
- ・空き家の多様な活用の推進は、他地域の参考となる好事例。



おららの炭小屋「奥木頭炭焼き保存伝承会」

概要

かつての山の生活文化を再現し、伝える「協働の場」を設けるために始めた。身近な自然を利用する知恵と知識を実践的に伝えるため、毎月1回の定例炭焼きワークショップや地元小中学生、インターン学生、町内外の団体（子ども会、社協、自然観察団体、NPO/NGO、高校）に対して体験型環境教育活動（木頭杉一本乗り、木挽き、木工竹細工、薪割りなど）を実施している。

評価された点

- ・山の生活、山の仕事、山の暮らしの知恵、様々な地域に永年に渡り蓄積された地域資源を次世代へとバトンタッチさせる貴重な活動である。また、幅広い世代を対象としながら、丁寧に取り組まれており、定着している点を評価し、引き続き期待。
- ・一見些細な事に見えるが、昔の知恵を活かすのはとても大切。古きを訪ねて新しきを知る。
- ・山の生活文化を再現し、知恵を伝えるために、町内外からの若者に定例的な体験型環境学習を行っている。地域資源（文化）をいかに伝え、共有していくかが問われる中、このような実践は参考となる。
- ・山の文化を伝える、体験型環境教育を定期的に行っている。



## 東京都足立区

### 概要

足立区の給食は、各校調理方式をとり、すべて食材から調理している。しかし各校で残菜量には大きなバラつきがあることが明らかになったため、学識経験者、区医師会、栄養士、調理事業者、学校長、保護者などをメンバーに「おいしい給食推進委員会」を発足し、残菜の多い・少ない学校の把握や、取組を全校で共有し、子どもたちが進んで食べる環境づくりに区全体で取組み成果を上げている。

### 評価された点

- ・学校給食での食材の調理において、栄養と美味しさの両面から工夫することで残菜量を軽減し、併せて、食文化や健康等を結びつけた総合教育を、地域をあげて取り組んでおり評価が高い。
- ・自給率は1%と言われている東京。東京育ちの子ども達に「食」を通じて、生産地、食材の環境、食文化等の教育を総合的に取り組み、各地の良き範例となって来ている点を評価。
- ・給食の残菜率を「見える化」することで学校ごとの取組みを促し、残菜率が半減するなど、具体的な成果を上げている。



## 兵庫県朝来市

### 概要

市は、少子高齢化、人口減少が深刻化していくなかで「自分たちのまちは自分たちで創る」という基本理念のもと、補完性の原則に基づき地域自治を充実強化するしくみとして地域自治組織「地域自治協議会」を組織した。現在、市内全域の11の地域自治協議会を基盤とし、分権型地域自治システムを構築し、地域の課題に応じて公共的なサービスを展開している。

### 評価された点

- ・地域課題の解決に向けた自治組織や交付金の制度は、行政中心の現代社会において斬新な試みであり、実践の成果は注目される。
- ・地域マネージャー制度は、人口減少の中で効果がある制度となる。地域全体での取り組みは評価できる。
- ・平成17年の合併前より、地域ごとの特色を生かしながら上手く広域連携を図っていた地域であり、合併を機にさらなる地域内分権、住民自治の推進が図られている。小学校区単位の地域自治協議会と地域自治包括交付金により、地域の判断と責任で実施する事業が拡大している。地域内分権のモデルケースと言える。
- ・合併により市域が広域化したなかで各地域の特性を大切に、地域が自律の精神で維持されるような取組みを推進しており、全国各地の多数の類似した地域の参考となる。



## 桑田 ミサオ

青森県五所川原市

## 概要

60歳から笹餅作りを始め、75歳から本格的な起業活動を行う。地元の野菜直売所やスーパーなどでも販売しているほか、地元私鉄で冬期に運行されるストーブ列車内で笹餅の販売を行い、地元のPR・活性化に向けた取組も続けている。また、被災地支援として東京家政学院大学の学生の力添えもあり千羽鶴ならぬ1,000個の笹餅を贈る活動を目指に掲げ、3年間で通算して3,000個を超える笹餅を贈った。



## 評価された点

- ・高齢化時代を迎えて、75歳から起業、活動を行っていることはこれからの時代の模範となる。
- ・70歳を過ぎてからの起業家として、周辺はもとより高齢化時代の中で、多くの人々に勇気と元気を伝えている。「おいしい」と「ありがとう」のコミュニティビジネスとして地域の誇りとなっている点を評価したい。
- ・団塊世代がリタイアをする年齢に、新たな夢を探す勇気を与えてくれるもの。
- ・生き方も含めて笹もちづくりの継承と、後継者育成に尽力している点を評価。



## 風間 教司

栃木県鹿沼市

## 概要

平成11年に自宅を改装してカフェを開業後、若者からの起業相談を受ける機会が増え、若者の創業支援・チャレンジショップ事業として路地裏界隈で「ネコヤド大市」を毎月1回開始。空き家や空き店舗での若者の開業支援を行い、若手経営者達とともに、市の歴史、文化、伝統芸能等の地域資源の魅力伝え触れて楽しむ工夫をこらした様々なイベントを実施し、中心市街地活性化に貢献。

## 評価された点

- ・地元での創業の相談だけでなく、様々な事業に取り組み成果を出している。
- ・自らの起業経験をベースに、若手企業家を応援し、町の活性化を実現している。
- ・「ネコヤド大市」「DANNAVISION」等の言葉使いの中に個人のセンスの良さを感じる。実際に5年間で15店舗の独立開業を生み出していることからネットワーク力や指導力がある。まだ若いだけに鹿沼を盛り上げる中心的な役割に大いに期待。
- ・若者が独立・起業する機会を提供し、さらにそこから地域を発展させる行事を創り出していることを評価。





## 概要

地域おこしのため、当時の農業協同組合長らとともにブルーベリーの産地化と商品化に尽力、能登を代表する特産品にしたほか、バイオマス資源や能登の食文化など、幅広く地域資源を掘り起している。また、金沢市内にアンテナショップを開設するとともに、能登町内にも「味知の駅」を開設し、能登ならではの物産販売や情報発信に加え、能登地域への誘客にも積極的に取り組んでいる。



## 評価された点

- ・ 地域特産品の産地化商品化に尽力されたことは高く評価できる。
- ・ 高齢化と過疎化が顕著な能登において、食文化を掘り起こす活動を行ってきており、評価が高い。
- ・ 能登地区の地域資源の発信、展開をリードし、観光などの集客にも効果をあげている。
- ・ 行政マンとしての経験と知識を背景に定年を待たずして地域貢献に立ち上がり、職員時代から変わらぬ姿勢で地域おこしのアプローチを続け、「能登里山里海市場」等地域の発信基地と呼べる実績を築いている点など高く評価できる。
- ・ 地域資源の発見、発掘と事業化に取組、成果を挙げている。



## 概要

障害や、働くことにヘタクソさを持っている若者を応援する仕組みが、身近な地域に存在すればという思いから、就労支援と「地域の困りごと」とを結び付けた取組みを実施。支援対象者を貴重な地域の担い手として掘り起こし、地域課題の解決に向けた活動の場へ導くことにより、地域を支える人材へと育成し、地域の人々などとも連携することで地域の経済循環を生み出す画期的な取組である。

## 評価された点

- ・ 障害や引きこもり等を抱える若者支援を、行政に代わって取り組む意識の高さと実行力は、表彰に値する。
- ・ 要支援者のサポートという課題（福祉）に対し、地域の持つ課題と将来の地域づくり（地域の困りごと）という大きな視点をもった先進的な活動である。
- ・ 実際の就労につながっていることは、大きな成果であり、評価に値する。
- ・ 地域の課題解決には、何かを資源にして戦略的に展開することが不可欠。地域の課題解決に、課題を抱えている若者を貴重な人的資源として育成して、役割をつくりだしているところに独自性を感じる。
- ・ 課題を抱える若者を「働く」ことに結びつけ、地域の経済活性化にもつなげているモデルは、他地域の参考になる好事例。



## 概 要

教職に従事しながら、郷土の歴史や文化を研鑽するうち、その魅力を一人でも多くの方に伝えたいとの思いから、平成10年に「本宮町語り部の会」を設立した。以後、卓越した知識をもって、来訪者を案内するとともに、後継者の育成を目的として、語り部を志す者の研修会を開催するほか、自ら資料収集や冊子の編集にも取り組み、熊野古道の語り部の第一人者である。



## 評価された点

- ・世界遺産指定で急速な地域変化と観光客の質の変化等、様々な課題が生まれる中、基本に立ち返り、地元の「郷土学」を広く、深く伝える「人づくり」を中軸に地域づくりを続けておられる点を評価したい。
- ・地域独自の資源の活用を自発的自主財源で長期間取り組んでいる。
- ・地域の文化をボランティアの語り部が広く伝えていく活動を興したことを評価。
- ・熊野古道語り部の第一人者。熊野古道の歴史の長年の研究だけにとどまらず、語り部の研修にも積極的に取り組み、地域資源に関心を深める人々が明らかに増加している。地域づくりはひとづくりを実践されている。



## 栃木県農業試験場いちご研究所

### 概要

栃木県のいちご生産は、昭和40年代にめざましい発展を遂げ、作付面積が全国一位となる中で、北関東の気候風土に適した品種の開発が求められた。本試験場では昭和44年から、食味が良く長期間栽培できる新品種開発試験に取り組んだ結果、促成栽培用、夏秋どり用など、計8品種を開発育成するとともに、大本となる原々苗の供給を通じて「いちご王国」の維持・発展を図ってきた。



### 評価された点

- ・いちご王国の発展に寄与されたことは大きな成果。
- ・実用性の高いいちごの品種開発により、一次産業から6次産業までの産業が活性化されることにつながっている。
- ・いちごの新品種の開発、育成を通じて、日本一のいちご産地の座を維持、発展させるのに寄与してきた。いちご生産農家の経営も向上し、農業の後継者不足が課題となる中で、県内の新規就農者は毎年、30人～50人に上っている。
- ・栃木県を「いちご王国」とならしめた源。6次産業化、農商工連携の好モデルを推進。
- ・全国的ないちごブランド「とちおとめ」を安定的に供給させるとともに、新たな用途、消費者のニーズに応えるための品種改良への取組が評価できる。



## 愛媛県農林水産研究所水産研究センター

### 概要

愛媛県南予地域の基幹産業として日本一の生産を誇る魚類養殖業の発展と生産者の所得向上を図るため、みかんフィッシュの開発等により養殖魚をいかに高く売るか、いかに安く良い魚を作るか、いかに需要を増やすかといった、消費や販売までを含めた観点から多岐にわたる研究テーマに取組み、地域に密着した試験研究機関として、地域の基幹産業を支える技術開発を行い、成果を上げている。



### 評価された点

- ・地域の基幹産業としての魚類養殖について、我が国が直面する食糧問題と地方問題の解決に向けた商品の生産、販売、消費を総合的な視点で捉えた取り組みであり、高く評価。
- ・研究をすすめていく過程、目的など、その背景に地域の産業を活性化するという明確でぶれない視点があり、地域に密着した活動となっている。
- ・研究の領域を超え、売る、作る、需要を増加させるというマーケット領域に踏み込んでいる。
- ・特産農業生産物を漁業に活かす発想力。研究、開発に留まらず、実需創出に寄与し、海外進出にも繋げている。
- ・地域の農林水産業を代表する生産物のハイブリッド＝高付加価値商品を生み出し、生産者の所得向上や地元愛媛の地域ブランド力向上に大きく寄与している点が評価できる。



## 概要

試験場に醸造部が設立された昭和4年以来、醸造・発酵関連食品を中心に食品産業全般に対応した技術支援を行っている。その中でも特産品の焼酎については、関連企業で組織された本格焼酎技術研究会を事務局として支えるなど、地道な支援活動を継続すると共に、「地域に根ざした焼酎蔵の個性的な焼酎造り」を実現するために、原料や酵母など選択の幅を広げる研究を実施している。



## 評価された点

- ・ 地域特性の高い資源の研究は、その波及効果は高く、広い範囲にもたらされる。今や世界発信を期待される中で、試験場の役割はますます大きくなってきている。
- ・ 人材育成・技術指導の継続により、地域の中から新たな価値を生み出す人材を輩出するようになり確実な成果を生み出している。
- ・ 新しい焼酎が次々と生まれ鹿児島の特産の基盤を支えている研究機関として評価。
- ・ 特産である焼酎の普及発展に地道に貢献し、一大地域産業にまで育てた功績は評価できる。また、文化にまで昇華させた。

